

「私の週末は猫碑の為に費やしています」

石黒伸一朗さん

(宮城県仙台市)

愛ある生活を求めて〈第二回〉

こよなく愛する猫碑のため、日本一、猫碑の多い丸森町に通い詰めた。猫碑があると聞けばどこまでも足を運ぶ。碑を見つけて出し、それを詳細に記し、調べることに喜びを感じるのだ。
昔の人は猫をどう愛したか——。江戸・明治・大正・昭和を生きた人々の暮らしぶり、その息づかいに想いを馳せる。



丸森町・百々石(どどいし)公園の山頂にて

その探究心、情熱は、日本に止まらず海外へも活動の範囲を拡げた。石黒さんの行動力の源を知り、なぜ猫碑がこの宮城県に最も多くあるのか、猫碑の存在理由は一体何であるかを探りたいと思う。



台風19号と丸森

猫碑の数の多さ全国一は、宮城县伊具郡丸森町だ。74基の猫碑と7体の石像が確認されている。丸森は昨年10月12日の台風19号で甚大な被害を受けた。

「あの10月12日の豪雨の翌日、

自宅のある仙台から丸森町に向かいました。それは想像以上の被害で、街にはとても入れない状況でした。でも、地域でとても大切にされている猫碑がどのような状況になつているのか心配で…。ところがいざ丸森に到着してみると、住民の皆さんのが遥かに大変で、本当に猫碑どころではない状況だったんです」

それでも、猫碑と石像が無事だったかどうか、石黒さんは時間を

江戸時代の頃から、神として祀られてきた猫。ヒトの大切な何かを守り、身近に暮らし、古来より大切な存在であり続けてきた。他の動物も碑として祀られているが、猫ほど多くは見られない。猫の石碑は宮城県に113基と最も多く、岩手県13基、福島県8基、長野県11基と、比較的、日本の北

にその存在が確認されている。また、宮城県には猫神を祀る神社が11か所あり、全国一の多さを誇っている。

「猫の神様、をご存じだろうか？」

作つては、その後幾度も丸森町を訪ねた。10月22日、石黒さんは「天神社」に向かう。土石流が起きた五福谷川沿いの中島地区にある神社だ。ここには猫碑が2基祀られ、うち一つは1810年、現存する最古の猫碑である。行ってみると石碑が2基ともなくなってしまつたのだろう、懸命に探し、どうにか見つけ出したのだそうだ。

神社の周辺には大量の土砂や瓦礫が積まれ、復興はまだ遠い状況である。



天神社石碑群 2号碑 安政5年(1858)



最古の猫碑が祀られる、被災した天神社。境内や拝殿に流れ込んだ土砂や流木は、氏子やボランティアの手によって撤去された。

石黒さんは「村田町歴史みらい館」の専門員だ。石黒さんが猫碑に初めて出会ったのは平成17年5月のことだった。仕事の関係で村田町音生にある「猫神碑」という石碑の調査を行なった。石には「神」の文字、そして、その上に猫の図が線で彫られていた。

「学生時代から猫の石碑があるということは知っていました。養蚕が盛んな地域では、ネズミから蚕の幼虫と繭を守るということで猫が大切にされています。だから猫碑があるのだと。しかし、その後丸森町へ行くたび、まだ誰にも発見されていない新たな猫碑を何基も発見したんです。

そのうちに、なぜこんなに丸森には猫碑があるのか、まだ見つけているない猫碑がもつとあるかもしれない、と思うようになりました。その発見が楽しくもあり、歴史・民俗的価値の重要性があるということも気付いたんです」

西は長野県から、北は青森県まで約500か所以上、丸森町だけでも300回以上は足を運び、新たな猫碑を探し続けている。

発見した猫碑は丁寧に拓本を取り、写真を撮って記録する。拓本を取るには、まず所有者の許可が必要。そして、石碑を傷つけないように積年の汚れを洗い清め、ゆっくりと時間をかけて紙に写していく。1基の拓本を取るまでに二、三度足を運ぶことはザラだ。猫碑が鎮座する場所が奥深い山中だった場合は、行くだけでも相当な時間要する。

「とにかく根気と丁寧さが大切ですね。暗い林の中で石碑を一見すると、何が刻まれているか分からぬことがあります。でも時間をかけて拓本を取り、写した紙に猫が描かれていたら…本当に苦労が吹き飛ぶくらい、嬉

天神社石碑群 1号碑 文化7年(1810)



天神社石碑群 1号碑 文化7年(1810)



村田町歴史みらい館

猫碑発掘の旅路

を大切にしていた人がいて、石に彫る人がいて、それを祀る人がいた。そんなところでしようかね

徳寿坊公園にある庄巻の石碑群を眺めていると、猫碑の隣に『蛇碑』が祀られていた。石黒さんは

蛇碑に興味はないのだろうか。

「私ね、生きている蛇は苦手ですが、最近は蛇の石碑も気になるので、拓本を取りましたよ」

石黒さんは、その猫碑の存在理由の関心より、猫碑そのものに愛を感じている。

「この猫かわいいでしょ、今でも好まれる絵柄だよね！ このしつぽ、この書き方いいよね！」

顔がシャツとしてる！ この時代にこんな顔の猫がいたんだね！」

石黒さんとの猫碑巡りの旅は、あつという間に時間が過ぎていく。

丸森町の猫碑に関する詳細な記録と解説は、丸森町文化財友の会が発行する『丸森町の猫碑めぐり』を参考にされたい。猫碑に関する

歴史の中での「猫と人」の触れ合

最も古い碑は、前述の天神社に祀られ、日本でも最古の碑とされてゐる猫神様だ。(右図)

大内地区には他よりも多くの猫碑があると感じた。さほど広くない範囲に32基もの猫碑がある。

「なぜ大内に多いのかは分かつてないんです。この地域で養蚕が盛んだったことは事実ですが、丸森のもつと北の方でも養蚕は盛んでした。にも関わらず猫碑があ

りませんからね。大内には特に猫いを探る貴重な財産である。



百々石公園の入口、細内観音堂そばに祀られた猫碑。『今朝のゆき いきふじ花の かたみかな 天保五年十一月吉日』(1834)

今も昔も変わらぬ存在



昔の人が猫神様を祀ったのは、単に不ズミを退治する動物だから、というだけではないよう思う。今も昔と変わらず、猫と人は密接な間柄で暮らし、家族として愛されてきた。その大切な猫が死を迎えたなら、心の拠り所をきっと望むのではないだろうか。その後の暮らしを守つて貰えるよう、願いを託したいと思うのではないだろうか。それが、猫碑の存在している理由——そのように筆者は考えている。石黒さんもきっと理解して下さるだろう。

石黒さんは今も、仕事に行かな
い休日は猫碑を探しに全国へ行く。
「私、猫のほかに狼信仰も調べ
ています。あちこち走り回ったの
で、この一年の車の走行距離は5
万キロを超えてしました！」

それでも62歳石黒さんの研究心
は衰えることはない。石黒さんの
「猫碑旅」はこれからもまだまだ
続くことだろう。